

イパネマノ娘の舞台となったイパネマ・レブロン海岸。このビーチと音楽とカーニバルがリオのオリジナリティなのだろう



ブラジルのマリン文化の中心となるのが、リオデジャネイロヨットクラブだ。マリーナを囲むように数多くの船が沖止めされている



水のある情景

ビーチと音楽とアート リオデジャネイロのショートクルージング



文：泉 和男 写真：矢部洋一

クルージングに必要な食材の調達や燃料、清水からクルージング先の泊地の係留場所など、マリナライフを丸ごとサポートしてくれる。同行のガイドからも「ブラジルで快適なマリナライフがしたいのであれば、まずは優秀なマリネイロを探すこと」とアドバイスをいただいた。ヤードを見渡せばセーリングクルーザーやアウトリガーを設えたコンバーチブルボートが整然と並び、これからの出航を思わせるボートには2、3人のマリネイロがいて準備を進めている。

そんなブラジルの週末のシーンを眺めていると、どうやら先ほどの話がまとまったようで、グアナバラ湾からイパネマ・コパカバーナまでのショートクルージングに決まったようだ。彼らにしてみれば、これぞブラジルという景色をまず見せたいという気持ちなのだろう。

現在、ブラジルの首都はブラジリアだが、リオデジャネイロは1502年のポルトガル人上陸以来、1960年に遷都を迎えるまで、ブラジルの政治、経済、文化の中心地として繁栄し、現在は、サンパウロと共にブラジルを代表するメガシティとして認知されている。

ちなみにリオデジャネイロの語源は、この地に上陸したポルトガルの探検家が、リオに面したグアナバラ湾を川と間違えて、1月に上陸した意味を込めて「1月の川（リオ・デイ・ジャネイロ）」と呼んだことによる。この湾は東西に約24キロ、南北に31キロ、湾内にある島は100以上と言われるが、その湾口の幅が15キロしかなかったことから、川に間違えられたという。以降、1800年代にはナポレオンに追われたポルトガル王国の首都として、さらには金鉱の発見による、金の積出港として世界的な貿易港となるなど、大航海時代からの航海文化の変遷と共に歩んできたという背景を持っている。

マリーナを出航したボートは、そのグアナバラ

はるばる地球の反対側からやってきた私たちはリオ自慢の海岸線を見せると言ってみる。こうして会話が続いている間にクレインからボートがゆつくりと降ろされて解纜の準備が始まる。ブラジルではオーナー自ら出港の準備をすることは希で、多くの場合はマリネイロやマリネイラと呼ばれる使用人がその役割を担う。その日の



ボンジアスーカルから眺めるボタフォゴの街並み。港の美しさだけでなく、スケールの大きい夜景も指折りの美しさだろう



グアナバラ湾のクルージング。リオの対岸、ニテロイからはコルコバードのキリスト像も眺めることができた

水のある情景

BRAZIL

ポテンシャルから眺めるボタフォゴの街並み。港の美しさだけでなく、スケールの大きい夜景も指折りの美しさだろう

西日が海を照らし、空が徐々に茜色を帯びてくると、ボタフォゴの海岸の沖止めされた船が、その輪郭を強調し、夕暮れを迎えたりオの海は、世界三大美港と謳われる素顔を覗かせた。そこには、ビーチと音楽と、そしてカーニバル。海や港と共に文化を育んできたリオデジャネイロが映し出されていた。

ビーチクルーズの帰路は、ふたたびグアナバラ湾に戻りリオの対岸にあたるニテロイの海岸線に沿ってボートを走らせた。ここで真つ先に目を引くのがニテロイ現代美術館だ。花をモチーフとしたデザイン建物だが、ガイドをはじめ地元ではU・F・Oと呼ばれるほどの独創的な外観で、芸術都市を目指すニテロイの代表的な施設になっている。サンパウロの美術館が所蔵品内容は南米随一と言われる一方で、数多くの商業広告にも登場するこの美術館は、スポーツや音楽、カーニバルなど、多芸に富むリオの文化の一端を見せるかのように存在感を表していた。

オフショアの風が、トップライトの日射しを和らげてくれる。東向きの海岸線は、日本と同じように、日が傾くにつれてシーブリーズが強くなるそう。キャプテンも海が穏やかなうちに湾内に戻ろうと言う。

ビーチクルーズの帰路は、ふたたびグアナバラ湾に戻りリオの対岸にあたるニテロイの海岸線に沿ってボートを走らせた。ここで真つ先に目を引くのがニテロイ現代美術館だ。花をモチーフとしたデザイン建物だが、ガイドをはじめ地元ではU・F・Oと呼ばれるほどの独創的な外観で、芸術都市を目指すニテロイの代表的な施設になっている。サンパウロの美術館が所蔵品内容は南米随一と言われる一方で、数多くの商業広告にも登場するこの美術館は、スポーツや音楽、カーニバルなど、多芸に富むリオの文化の一端を見せるかのように存在感を表していた。

このボンジアスーカルは、ふたたびグアナバラ湾に戻りリオの対岸にあたるニテロイの海岸線に沿ってボートを走らせた。ここで真つ先に目を引くのがニテロイ現代美術館だ。花をモチーフとしたデザイン建物だが、ガイドをはじめ地元ではU・F・Oと呼ばれるほどの独創的な外観で、芸術都市を目指すニテロイの代表的な施設になっている。サンパウロの美術館が所蔵品内容は南米随一と言われる一方で、数多くの商業広告にも登場するこの美術館は、スポーツや音楽、カーニバルなど、多芸に富むリオの文化の一端を見せるかのように存在感を表していた。

このボンジアスーカルは、ふたたびグアナバラ湾に戻りリオの対岸にあたるニテロイの海岸線に沿ってボートを走らせた。ここで真つ先に目を引くのがニテロイ現代美術館だ。花をモチーフとしたデザイン建物だが、ガイドをはじめ地元ではU・F・Oと呼ばれるほどの独創的な外観で、芸術都市を目指すニテロイの代表的な施設になっている。サンパウロの美術館が所蔵品内容は南米随一と言われる一方で、数多くの商業広告にも登場するこの美術館は、スポーツや音楽、カーニバルなど、多芸に富むリオの文化の一端を見せるかのように存在感を表していた。

このボンジアスーカルは、ふたたびグアナバラ湾に戻りリオの対岸にあたるニテロイの海岸線に沿ってボートを走らせた。ここで真つ先に目を引くのがニテロイ現代美術館だ。花をモチーフとしたデザイン建物だが、ガイドをはじめ地元ではU・F・Oと呼ばれるほどの独創的な外観で、芸術都市を目指すニテロイの代表的な施設になっている。サンパウロの美術館が所蔵品内容は南米随一と言われる一方で、数多くの商業広告にも登場するこの美術館は、スポーツや音楽、カーニバルなど、多芸に富むリオの文化の一端を見せるかのように存在感を表していた。



花をモチーフとしたニテロイの近代博物館もクルージングスポットのひとつ。数々の商業広告に登場している



グアナバラ湾はこうしたポンツーンが多い。こうした点は同じく世界三大美港と言われるシドニー湾と似ている



ヤマハマリンクラブ「Sea-Style」は「選べる遊び」「選べるスポット」「選べるボート」をテーマに全国約140カ所のホームマリナをネットワークで結び、海のさまざまな遊びの情報を提供する会員制マリンクラブです。会員であれば、北海道から沖縄まで、全国のホームマリナをどこでも予約、利用することが可能です。ご予約はインターネット、携帯サイトまたはお電話でも承っております。

■主なクラブ艇

- クルージング LUXAIR / 24Siesta FV / FR-23
Belfino / AS-21WB / AS-21
 - フィッシング YF-24 / YF-23EX / YF-23F / YF-21
YF-21CC / F.A.S.T.26 / FW-20Ltd
 - トーイング AS-21WB / AG-21
 - マリンジェット MJ-VX DX
- ※クラブ艇は随時導入されます。
※ホームマリナにより利用可能な艇種が異なります。
※ホームマリナによりクラブ艇の定員を制限している場合があります。
- ※全艇GPSを装備しています。
※トイレ装備はホームマリナにより異なります。
※全艇保険に加入しています。ご搭乗者にも適用されます。
(免責金額5万円)

■入会資格

- 年齢：満18才以上(未成年者は保護者の承認が必要です)
 - 保有免許：2級(5海里限定)以上の小型船舶操縦士免許所有者
- ※法人・団体での加入もできます。
※マリンジェットの利用には小型特殊免許が必要です。

■費用

- 入会金：21,000円
 - 月会費：3,150円
 - 利用料金：4,000円(FW-20Ltd)～
- クラブ艇は、3時間または6時間でご利用いただけます(マリナ営業時間内)。ご利用日、ご利用時間により、料金が異なります。

■入会の方法

- ホームマリナ、免許教室募集店で：「ヤマハマリンクラブ・シースタイル」入会申込書をお受け取り、必要事項を記入してお申し込みください。
- フリーダイヤルで：フリーダイヤル(0120-730-344)にお申し込みください。入会申込書を送付いたします。
- オンラインで：ホームページでも入会申し込みを受け付けています。お支払いはクレジットカード決済となります。

マリンジェットファンのご要望にお応えして いよいよ4月1日スタート

会員制マリンクラブ・シースタイルでは、マリンジェット限定のシースタイルプラン「シースタイルジェット」を新たにスタートします。この「シースタイルジェット」は、利用できるクラブ艇をマリンジェット限定とすることで、入会金21,000円(初回のライディングスクール費用含む)と月会費1,575円で、シースタイルのマリンジェットが利用可能になります。

- 【概要】 ●名称:シースタイルジェット ●入会金:21,000円(初回のみ。初回ライディングスクール費用含む)
●月会費:1,575円 ●利用料:シースタイル利用料金に準じる ●利用可能MJ:MJ VX-DX

★ヤマハマリンクラブ「Sea-Style」およびヤマハボート免許教室に関する詳しいお問い合わせは
フリーダイヤル ● 0120-730-344 (なみをみようよ)
※受付時間午前9時30分～午後5時30分
シースタイルホームページ ● <http://www.yamaha-motor.jp/marine/sea-style/>

Sea-Styleの主なクラブ艇



気の中で、満開の桜がオブジェのようにせり出して、その存在感を強烈に誇示している様子は、まさにお花見シーズンでしか見られない光景だ。

このように東京の水路脇には多くの桜の木が植えられているのだが、なぜ東京の河川には桜の木が多いのだろうか。運河での桜巡りをしていると、ふとそんな素朴な疑問が湧いてくると思うほど、川辺には桜並木が多い。その答えは諸説あるのだが、一般的に河川に桜が植えられたことについては、水害を防ぐ堤防に桜を植

えることで、根を張らせて強固なものになると同時に、花見に来る人の足で土を固めて決壊を免れようとしたという説が有力だ。季節の流れは今も昔も変わらないだろうから、春に花開く桜を植えることで、梅雨の前には人が集う。大勢の足で踏み固めることで、その年の整備としたのだろう。

現在咲き誇る桜は戦後のものが大半だが、同じような場所に咲き当時と変わらずに今も水面を見守っている。そしてその背景には未来の象徴ともいべきスカイツリーが聳え立つ。

この絶妙なアングルで花見が出来るのも運河クルージングならではのだろう。お花見のシーズンだからこそ、日常ではとても味わえない贅沢な時間を楽しむことができる。

今回は東京湾のお花見クルージングをお伝えしたが、横浜の大岡川、名古屋の堀川、大阪の大川、それに広島島の元安川など、シースタイルを利用すれば、これら各地のお花見運河クルージングが楽しめる。

極上のお花見クルージングをシースタイルで手軽に体験してみたいかがだろうか。



Sea-Style 極上のお花見クルージングへ



「花見に行こうか」
そう誘われたら、真つ先にスケジュールを確認する。さらに『ボートで花見に行かないか』と言われたら、よほどのことがない限り断る理由などない。桜の名所の多くは川沿いにあり、人混みの喧噪とは一線を画す『お花見クルージング』は、桜の時期にしか楽しめないその時間だけの遊びだからだ。

今回紹介する「お花見クルージング」では、運河巡りが主体になるので、できることなら小回りの効きやすいオープンタイプの船外機艇を選んだ方がいい。視界の良さと相まって、操船と景色を楽しませてくれる。シースタイルならAS-21やFR-23を始め、さまざまな船外

機艇が用意されているので、自分に合ったボートでお花見クルージングが楽しめる。ボートさえ予約してしまえば、花見の場所取りを心配したり、桜を見ながら人で窮屈な歩道を歩く心配もない。都内であれば、お気に入りのホームマリナでボートを借りて、運河をゆつくりと走らせるだけ。あちらこちらに咲き誇る桜並木が鑑賞できる。

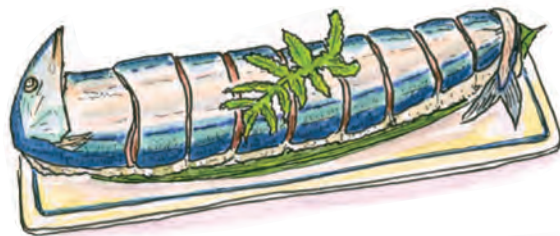
東京のお花見クルージングで人気が高いスカイツリーを背景にボートを走らせる。お花見のシーズンともなると隅田川にも数多くの遊覧船が走っているが、右側航行の原則を守って無理な追い越しさえしなければ、川沿いの桜並木を十分に楽しむことができる。隅田川だけではなく、同じ、と思うなら、ぜひ小名木川から北十間川、横十間川へと足を伸ばしてみたいかがだろうか。水路が持つ静謐な雰囲気



秋といえばコレ 殿様も感動、ニッポンの味

●文・山口壮一 ●イラスト・Yu-ri

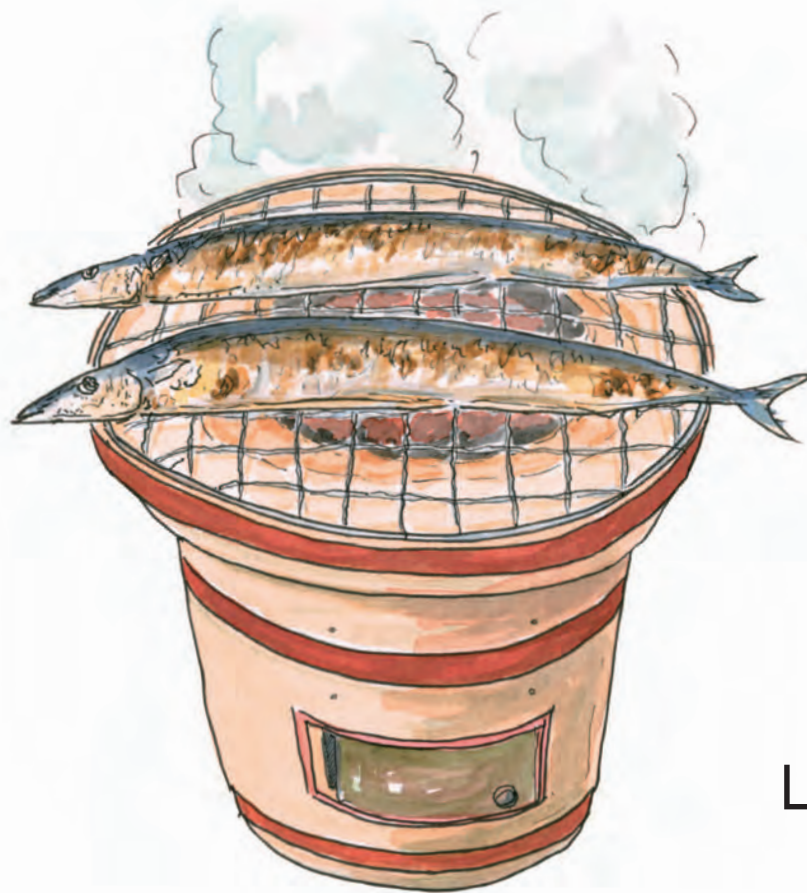
和歌山の名産『さんま寿し』



『さんまのつみれ汁』



肩の部分が盛り上がり、吻が黄色くなっている方が脂がのっている
体はスマートだが大食漢 腸が短いので絶えず食べ続けている



「秋刀魚」

を作って、絶賛されていたわけ。）
皮の下で脂がふつふつと踊っている焼きたてのさんまに、鬼おろしでおろした粗めの大根おろしを乗せ、身と一緒にほろ苦さと甘さが渾然一体となったワタをパクッ！
おお、これ、これ、この味!! と喜んでいられるもつかの間、口の中に鱗がざらざらと残っているのは、どんなに鮮度も脂も最高であつても台無しということなのだ。細やかな日本料理ならではの感性。

塩焼きのほか、近年は水揚げ地での鮮度保持技術の向上、鮮魚流通の革新もあって刺身も普通に食べられるようになってきた。つみれ汁は五臓六腑に染み渡る滋味、梅煮や蒲焼きは日本人のDNAを喜ばせる美味だが、古典落語「目黒のさんま」で殿様が絶賛した、炭の中に突っ込んで焼いた庶民の塩焼きが、究極の食べ方かもしれない。

現代の住環境では、それも敵わぬ夢ではあるけれど…。

【追伸】
毎年9月に行われている、恒例「目黒のさんま祭り」にさんまを無償提供している岩手県・宮古市は、震災で漁港を中心に壊滅的な被害を受けたにもかかわらず本年も例年通りに供出したとのこと。宮古市の一日も早い完全復旧を願つてやみません。

下の方のさんまは、荷重で身が傷んでいる可能性があるのはもちろんだが、他のさんまの「うろこ」をたくさん飲んでいいるから！
そう、さんまは身と同様にワタに価値があるのだ。
（そういえば、昔、「料理の鉄●」でさんまのワタのアイスクリーム

のソウルフードといえるだろう。
シンプルだからこの塩焼きを美味しくする要素は限られるが、一流料理人は鮮度、脂の乗りとともに、大量に揚がったさんまの中でも、氷が入った大きな箱「ダンベ」の一番上についている個体を厳選するそう。なぜなら、

魚に限らず、日本人が秋から連想するモノのベスト5には間違いなく入って来るであろう「秋刀魚」。
王道の塩焼きは、塩を振って焼くだけというお手軽さから、よっぽどの魚嫌いの方を除けば誰もが知っている美味。もうこれは日本

『海の男の塩加減』

通算4本が封切られ、まだ続きそうなこの人気シリーズには幾多の「キャプテン」が登場する。しかし、そのファッションに言及しよう、なんて言う、あなたは思うかも知れない。

あれはコスプレじゃないか。俺には関係ないよ、と。

いえ、ちょっと待ってほしい。実はあの戯画化された海賊ルックの中に、非常に大切な、海の男が参考にすべきエッセンスが含まれているから。もちろんあの格好そのままをするのがいいなんて言わない。ドクロモチーフがいいとかでもない。そういう具体的なことじやなくて、なぜスパロウ船長はセクシーなのか考えてみようってことだ。

ズバリそれは「フェミニン」な要素の使い方だと思う。これはカッパのフェミニンなだけだ。

魅力的に見えるものはすべからず、ある種の「揺れ」を持っているんだけど、ファッションの揺れの多くは、実は中世の昔から、男性性と女性性の間を揺れているのだ。

キャプテン・スパロウはやりすぎ作りすぎに見えるけど、あれは映画の世界観の中でバランスであなっているわけで、現代キャプテン世界に翻訳するなら、非常に抑制の利いた、加減のいい「揺

よく華奢な女の子が、ボーイフレンドのシャツを羽織ったり、わざとオーバーサイズのジャケットを着たりすると、うんと女っぽく見えたりするでしょう？ あれと同じように、フェミニンなエレメント

が、荒くれたパイレーツたちをたくましく見せているんじゃないかしら。

主演のジョニー・デップが、おなじみキャプテン・スパロウのあのスタイルを作り上げる時に、ロー

リング・ストーンズのキース・リチャーズ（四作目にも友情出演している）を参考にした、というのは有名な話。つまり、ジョニー君は海賊つロックだ、と思ったのだ。じゃあロックってなんなのか。

ロックは私から見たらセックスの強調で、大げさに「揺れ」を持ち込んで目をひくテクニクを含んでいる。今じゃロックっぽいファッションはすっかり形式化して、見慣れたものになっちゃってるんで、誰もそんなこと意識しないけど、ロックな格好のお約束は要するに女に見えないように女性的に装うことだ。

この女には見えないけどフェミニンを取り入れている、というところがバランスだ。その塩加減はそれぞれの人の容姿や年齢で変わってくるけど、自分にちょうどいい塩加減が見つかったら、マリンファッションはぐっとセクシーレベルがあがるはず。それがキャプテン・スパロウから学べることだ。

きれいな色、キュートな柄、おなじみボートネック、透けやドレープがある素材、文字通り揺れるスカートやアクセサリ、華奢なサングラス、ヘアスタイル。何でもいけど、どこかちょっと意識してフェミニン味を足してみる。実用一点張りのところへ柔らかなや装飾や気取りを持ち込む。ほんのちよつとだけ。ただし過ぎたは危険。あなたの海の塩加減で。お試しあれ。

『パイレーツ・オブ・カリビアン』

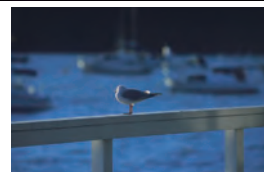
●文・恩田好子 ●イラスト・塩澤文彦



FEMININE



アングラー達のゴールデンタイム。 ニュージーランド



Morning Glow



ニュージーランド北島の、さらに北の外れに位置するベイ・オブ・アイランズは、魚の宝庫として知られている。確かに魚影が濃いことはポートアングラーにとって魅力だが、この海の魅力はそれだけではない。素朴な街並み、華美な装飾を廃した小さくも美しいホテル。深い緑が生い茂る半島や島と青い海とのコントラストの中にデザインされたかのような景色は、ニュージーランドという国柄をこのうえなく表していると思える。

ベイ・オブ・アイランズの街のひとつ、ラッセルには、由緒あるフィッシングクラブがある。まるでヨットクラブのようにメンバーのネームプレートが掲げられていたが、そこにはアメリカ人の作家でIGFAの殿堂にも入ったセーリング・グレイの名前もある。彼は惜しみなくこの海辺に滞在しつつ、カジキ釣りを楽し

「フィッシング・エルドラド」と題した分厚い手記を著した。

ラッセルの中心地には大きな桟橋がひとつあって、ここに近隣の泊地からボートがダイビングやフィッシング目当ての客を迎えにやってくる。釣りのボートは夜明けと同時に迎えに来た。もっとも期待に胸が膨らみ心躍る時間。そして美しい時間。辺りが白みはじめてから日が昇るまでの時間を釣り人は「朝まづめ」として大切にす。魚がもっとも食欲旺盛になるのが、この朝まずめと日没から完全に暗くなるまでの夕まずめという時間なのだ。それ故に、釣り人は万国共通で、その時間帯を最も大切にする。幸福感が充満するこの時間帯にゼーン・グレイも同じように期待に胸を躍せながら、ボートに乗り込んだのだろうか。

クルージングで味わう マリンパラダイスの魅力。

パラオ

Sunny Day



ミクロネシアの西方に浮かぶパラオ。そこはカジキやGTなどのビッグ・ゲーム・ファンにはたまらない、豊饒の海に囲まれた島国である。そしてダイビングやシュノーケリング、さらにクルージングのファンに対しても、パラオの海は飽くなきニーズに応えてくれる。

海は、この国の最大の資源だ。産業としては小規模な沿岸漁業と、輸出入のマグロを中心とした近海漁業がある。しかし、それらに携わってきた多くの漁師たちは、漁業からスポーツフィッシングのチャーター業やダイビング船の船長に転向していると聞いた。政府も観光業の振興に寄与するこうした流れを税制などの面で支援しているのだという。



でも海を無節操にビジネスの場として見ているわけでもない。たとえば上陸や接岸を禁止する無人島は多いし、ボートの航行を禁止するエリアもある。シュノーケリングやダイビング時の餌付けの禁止など、さまざまな環境保護を目的としたルールがパラオには多い。この島々の人びとの「海を守る」意識は先進国以上に高く見える。

さて、最初にあげたパラオでのマリンレジャーメニューの中でも特におすすめなのが、クルージングだ。パラオでのクルージングの楽しさは、この国を特徴づけているロックアイランドによるところが大きい。パラオの島は大小合わせて586ほど。その多くはマリモが浮いているような、もしくは緑のお椀を伏せたような独特の形をしていて、さらに、それが無数にあるものだから、まるで海に迷路が造られているようなのだ。そこをボートでただただ走る。

熱帯の射るような日差し。それでもボートに乗って美しい海を走りまわり、時にボートを止めて海に戯れていれば、クイラーの効いたリゾートのツインルームにいるよりも快適で幸せな気分になることができる。

目に眩しい美しい緑で覆われた島々と、ところどころ、瞬時にその色を変えていく海が足下を過ぎ去る感覚を十分に楽しんだら、ランチにしよう。

ロックアイランドの中にはいくつか公園のようになっている無人島があつて、おあつらえ向きにちょっとした炊事場とバーベキュー施設まで備えられている。

そんな島のひとつを案内してもらった。木の枝がせり出し、影が作られたビーチにそっとボートをとめて上陸する。食材を降ろして、楽しくランチパーティといこう。もちろん後片付けはしっかり、ゴミは跡形も残さずに。なんといってもここは海の楽園なのだから。

